

(第2回研修会)

①宮道 喜一氏ご講演

[地域の景観まちづくり]

- ・景観まちづくりは「地域」にとってどんな意義がある？

→分かりやすさゆえに景観とまちづくりの相性がある。

→ちょっとしたことで大きな効果を生み出せる。

→景観は多くの異なる主体の意思決定の結果でできている。

→景観とは、住環境を総合的に空間に投影したもの。

→地域の価値が見いだされ、共有されている地域は、人や企業を惹きつける。

[景観まちづくり市民参加]

- ・景観まちづくりへの展開

→身近な地域資源の発掘からまちなみへの再編集。

→地域独自の住宅づくりから景観への展開。

→公園、街路や商店街など、公共空間のデザイン協議からの展開。

→住環境の整備、保全活動から。

→身近な自然環境の再生活動からの展開。

- ・どんな場面への参加が可能か。

→まちの景観資源を発見、発掘するプロセスへの参加。(風景資産の登録など)

→まちや空間を利活用する催しや日常活動への参加。(活動助成)

→まちづくりのビジョンをまとめる場面への参加。(持続的に開かれた場、アイデア・議論のストックを継承するしくみ)

→個別のまちなみ協議やデザインの現場への参加。

[合意形成のポイント]

- ・多数な考え方の存在を認める。

- ・それぞれの意見の根底にある価値を掘り起こす。

- ・情報を共有する。(例えば土地の歴史、もう変えようの無い事実に対して、情報を共有する)

- ・お互いに納得できる解決策を協働で見出す。

- ・合意形成のプロセスを大事にする。

[参加のプロセスデザイン]

- ・達成したい目的のために、いつ、誰と、何を目標に、どのような場を経て、到達するのか合意するのかを描く。



②日高 智子氏ご講演

- ・景観行政における地域住民の参加の課題とオープンガーデンというイベントの参加者誘導の共通の課題を見つけ、その取り組みから住民に対するアプローチの仕方や説明。
- ・名前から覚えていただくために、毎日家に伺う。お互いを知ることから始める。
- ・初めて参加する住民の方へのアプローチ。

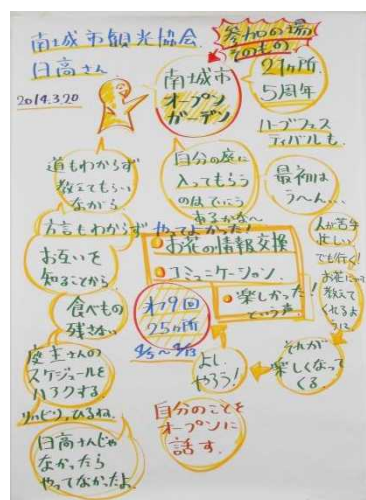
→様々な理由でオープンガーデンに参加するのをためらう方もいた。

手入れをしてきた庭に他人を入れることに抵抗がある。
人と接するのが苦手等。

→何度も家を訪れ、お花についての質問や会話をしている内に庭主も自分のお花について説明をすることに対して楽しくなり、人に説明する事に楽しさを覚える。オープンガーデンに参加意欲が出てくる。

→庭主さんのスケジュール（ライフスタイル）を把握すること（家を訪問時に会えない事がないように）。お花の情報交換、コミュニケーション（世間話）も大切だと感じた。

→オープンガーデンに参加することで、庭が人目に付くということから庭を綺麗にしようという意識へと繋がり景観に対して意識が高くなる。



③浦添市 古堅 功氏ご講演

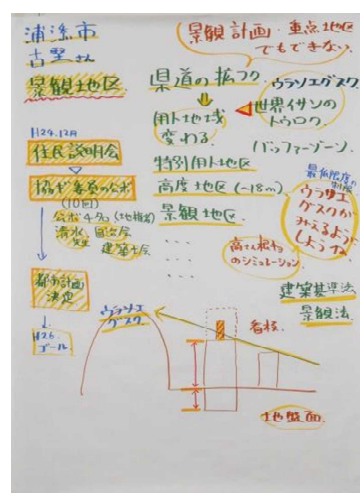
[地域合意の現状と課題について]

- ・県道浦添西原線の拡幅（二車線から四車線へ）に関して、都市モノレールが入ることについても要素に入れている。その際に建替えが始まるので景観地区へ指定しようとしている。ウラソエグスクの世界遺産登録にともない、周りの都市計画の守るべき景観に対してバッファゾーンを設定。

→都市計画設定においてある程度の強制力を持たせようとしている。

- ・高さの制限。

→高さを測る際に、スタートをどこから取るかが問題となっている。建築基準法では地盤から取るが、景観法になるとどこからスタートするかというルールが無い。景観法は、独自にルールを定める事が可能になってしまうので建築基



準法で考え、十分な協議を要した。

④地域との合意形成をテーマとしたワークショップ

具体的な条件設定を行い、景観地区や重点地区の指定に向け地域住民の合意形成のプロセス案を作り、課題や修正点について話し合うことより、実践的な合意形成のためのスキルを習得する。テーマ1「地域との合意形成のプロセスを考える」テーマ2「地域合意のためのワークショップのプログラム」の2つを用意。

テーマ1・2ともに条件の設定を行う。

- ①景観地区か重点地区か。
- ②住民規模もしくは世帯数規模はどの程度か。
- ③いつ頃までに合意を目指すか。
- ④どのような取組を図るか。



A グループ			B グループ		
沖縄市	技査	島 英治郎	沖縄市	技師	伊禮 樹
糸満市	主事	佐久間 麗子	読谷村	主事補	新城 築
読谷村	主任主事	島袋 仁	本部町	主事	天久 勝紀
浦添市	主任技師	古堅 功	竹富町	課長補佐	東金嶺 肇

ファシリテーター

A グループ	B グループ
佐藤 努	恩河 稔

～テーマ1：地域との合意形成のプロセスを考える～
[グループA]

設定条件：景観地区、200人、70世帯、高さ制限、形態意匠（赤瓦）、1年間の期間

- ・住民説明会を実施。
- 意見の反映。
- 勉強会の開催。（重点地区と景観地区の違いについて学ぶ）
- 合意形成を図る。



[グループ B]

設定条件：竹富町をモデルとした重点地区、
250 世帯、伝建地区の基準、勾配基準を設ける、形態意匠（瓦）5 年間の期間

・島のコミュニティごとに地域懇談会を開き、地域の良さを確認する。そして、地域住民の意見を出しあう。

→情報共有、島全体への周知を図る。

→賛成派反対派があり基本的に賛成派の方しか懇談会に出席しないので、反対派へ個別訪問。（コミュニケーションをはかる）



～テーマ 2：地域合意のためのワークショップのプログラム～

[グループ A]

設定条件：重点地区指定に向けて、100 人、30 世帯

・守るべき対象、資源を取りまとめる。（どういう未来にしたいか話し合う）

→どういった基準が必要になるか考えていく。

→具体的な数値基準をつくる。

・ワークショップの内容

→自己紹介、目的説明から入る。

→グループ分け、堅苦しいものにならないようアイスブレイクを交える。

→良い景観、悪い景観、残したい景観とポイントを発表。

→発表された内容をグループ化、キーワードで分ける。

→実現化するためのキャッチフレーズをつくり、地図にプロットするなど落とし込んでいく。

→発表会を通して、瓦版を作成。不参加者に対し、配布を行う。

[グループ B]

設定条件：テーマ 1 と同じ

・周知方法

→住民参加者を増やすために広報、ポスティング、放送。

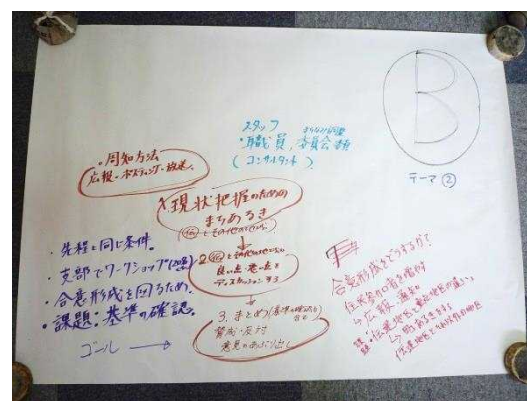
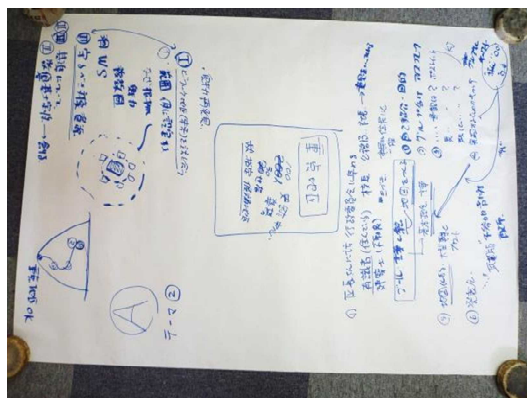
・現状把握のための、まちあるき。（伝建地区と重点地区の違い）

→伝建地区とその他地域の良い点悪い点をディスカッションする。

→まとめ（基準の確認も含む）

賛成、反対の意見をあぶり出す。

[手書きまとめ]



⑤講師とファシリテーターによるまとめ

- ・ 共通認識を作る。
- ・ 効果が目に見えることで、住民が自発的に動く。
- ・ 板書することで、次のワークショップに結果として積み上げた議論を行うことが出来る。
- ・ 自発的に行動するには、見える効果が必要になる。
- ・ 賛成（大きい声）の意見しか出ない。反対（小さいな声）の意見は出しにくい。
- ・ 個別訪問が必要になる。
- ・ ワークショップの際に、付箋に意見を書くことは、個人で意見を書くので集中して書きやすい。
- ・ 小さな声でも意見が出せる安心な場で話が出来る環境を作る事が大切。

例えば大人数が集まったとしても、グループになり分かれることで意見を出しやすい環境にする。